

IPM実践指標(エダマメ)

管理項目			点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境整備	栽培圃場周辺の管理	病害虫・雑草のほ場内への侵入を防止するため、ほ場周辺の雑草を除去する。	1点		
		土壌pHの矯正	土壌pHを測定し、pHが低い場合には石灰質資材を施用し、土壌のpHを6～6.5に矯正する。	1点		
		施肥	土壌診断の結果に基づいて元肥を施要する。追肥は草勢をよく観察しながら適正に施肥する。	1点		
		土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に罹りにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
		排水対策	排水が悪いほ場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する等の改善を行う。	1点		
		栽植密度	適切な栽植密度とし、通風採光を図る。	1点		
		ハウス・トンネル管理	適正な換気に努める。徐々に外気に馴化させていく。	1点		
判断	防除要否・タイミングの判断	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点		
		気象情報の把握	週間天気予報等の気象情報を把握し、防除の要否を判断する。	1点		
		トラップの設置	フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、防除時期の判断をする。	2点		
		病害虫の観察	近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、ほ場での判断材料とする。	1点		
			病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点		
		土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点		
防除	耕種的防除	輪作	田畑輪作をおこなう。	1点		
		作型	極端な早播きを避ける。	1点		
		収穫後残渣の処理	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分する。	1点		
	物理的防除	防虫ネットの利用	鳥の食害や害虫の飛び込みを防ぐため、防虫ネットで被覆する。	1点		
		マルチ被覆	雑草の抑制や、土の跳ねあがりを防ぐため、マルチをする。	1点		
		生物農薬の利用	微生物農薬を発生初期に使用する。	2点		
	化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点		
		薬剤の選択	薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。	1点		
			気門封鎖剤等の物理的防除効果のある剤を組み入れる。	1点		
			天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1点		
		飛散防止	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、適切な飛散防止策を講じる。	1点		

IPM実践指標(エダマメ)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
その他	散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分行う。残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。	1点			
	作業日誌	病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用年月日、希釈倍率、使用量、使用方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。	1点			
			合計 点数			
			対象 IPM計			
			評価結果			